

第3期宮前区区民会議 第10回地参知笑部会

ちさんちしょう

～ 地域の魅力を知り、地域社会への参加につなげ、笑顔あふれるまちに ～

日時：平成23年11月2日(水)18:00～20:00

場所：宮前区役所 第2会議室

次 第

- 1 前回の振り返り
- 2 提案素案の検討について
- 3 その他

【配布資料】

- 資料1 第9回地参知笑部会摘録(案)
- 資料2 今後のスケジュール
- 資料3 地参知笑部会提案素案(案)

第 3 期宮前区区民会議 第 9 回 地参知笑部会 摘録(案)

日 時 平成 23 年 9 月 28 日(水) 18:00~20:00

場 所 宮前区役所 地域振興課奥会議室

参加者 委 員 持田部会長、恒川副委員長、山下委員長、河井委員、久保委員、
中村委員、高橋委員、平井委員、吉田委員、
直本副委員長(オブザーバー)

事務局 有山企画課長、雨宮係長、白石職員
佐谷コンサルタント

1 前回の振り返り

持田 摘録については見ていただいて修正等あれば知らせてほしい。

2 区の情報戦略について

高橋 (プロジェクターによるインターネットについての解説)

平井 ツイキャスはどれぐらいの人が見ているか?

久保 うまく検索に引っかからないと見ない。

高橋 ツイッターで情報を流して見てもらう。

持田 宮前ぼーたろう等とつなげることもできるのか?

高橋 できる。みやまえ映像コンクールの映像もあるが、伝えることができてない。

久保 若い人とやれるとよい。

持田 情報発信としては有効だと思う。冊子を 1 万部作って転入者に配ることに加えて何をやっていくか。

平井 宮前ぼーたろうをもっと使ってもらえないか。

高橋 宮前ぼーたろうはお店情報が中心になっている。

河井 前の区民会議の時は宮前ぼーたろうに積極的だった。

恒川 麻生区の情報発信は区がやっているのか。

区 民間でやっている。

恒川 やっていくことは賛成だが、クレームが来た時に対応できないのではないかと。更新や費用のこともある。情報発信に使っていくということが結論ではないか。

平井 募集してはどうか。市民館で募集する。

高橋 宮前ぼーたろうは「まいぷれ」という会社がやっている。市内には 5 つのポータルサイトがある。

区 麻生区にはメールマガジンがある。

高橋 メールであると音声で読み上げてくれる。

持田 今回で結論が出るわけではないので今後も検討したい。

佐谷 自治体の情報発信としては、ツイッター等があり、ツイッターは自治体の公式の場合はお知らせが多い。ゆるキャラなどは市民がやっている場合もある。

持田 冊子との関係はどうなるか。

佐谷 冊子に載っているイベント情報を数日前にお知らせしたり、今やっているということをつぶやくと人が集まってくる。ツイッターは即時性がある。震災を期に公式でや

第3期宮前区区民会議 第9回 地参知笑部会 摘録(案)

る自治体が増えた。

3. コミュニティへの参加を促す冊子について

持田 市民館で講座をやることは確実か？

区 ほぼ確実に実現できると思う。

久保 講座内容を見るとスキルアップのためというイメージがある。地域のコミュニティづくりのための冊子づくりとどう結びつけていくか。

区 講座の設置目的として「地域のコミュニティづくり」を入れていく。

久保 地域コミュニティとのつながりをつくりながら、スキルアップにつなげるということではないか。

平井 冊子の内容を講座の参加者にきちんと伝えないといけない。我々が考えていることと違う冊子ができると困る。

区 内容については区民会議提案が前提になる。冊子をつくり、それをソーシャルメディアで広げていく。大学生の場合、それを後輩の学生につなげていってもらえればいいと思う。

区 市民館は何かをつくるのが目的ではない。学ぶことが目的となる。

河井 市民館でやる必要はあるのか。

久保 とことは情報誌がほしい人が集まって作った。

区 市民館は人材育成が目的。冊子をつくるのであれば実行委員会を作った方が早い。今回は完成度を高めていくよりは、人材育成が主眼となっている。

平井 今までやってきたことと切り離されるのではないか。

区 区民会議の提案に対するストライクゾーンを広めにとってほしい。講座を受けた人に宮前情報サポーターズになってもらう。

久保 宮前情報サポーターズの位置づけをきちんとする。受けた人はサポーターになってもらう。また、誰に来てもらうか。お母さんも来ていいなら保育をつけないといけない。また、町内会の人を受講すると面白いと思う。町会のホームページとか、ツイッターとかへの展開が期待できる。

河井 冊子とネットが並列になっている。

区 冊子の比重が8割ぐらいになると思う。

平井 区民会議で提案したものをつくってもらうことが伝わるのか。

高橋 人に任せるのであればある程度は変わる。主旨を伝えるのであれば講師はこのメンバーになってもらう。また、グループ化していかないといけない。

久保 子育て世代でつくっている通信のレベルアップのために誘うことができると思う。

恒川 冊子をつくるのは受講生が全部やると考えなくてもいいのではないか。ネットの情報発信は若い人にやってもらう。担い手を学生に引き継いでもらう。

直本 区民会議から発展した様々な活動の情報発信をやってもらうことを別途考えないといけない。

持田 区民会議から実行委員会に引き継ぐと抜けられないという話があって、新しい人材を発掘しようということだったと思う。この講座で冊子をつくるということではな

第3期宮前区区民会議 第9回 地参知笑部会 摘録(案)

かったか。

平井 冊子をつくるのであれば、目的がスキルの習得だと話が違う。

持田 実際につくる場合は、区民会議の提案どおりではないと思う。ストライクゾーンが広いとはそういうこと。

久保 「区の情報誌をつくろう！」という講座名でいいのではないか。

恒川 市民館は冊子を作ることを義務化できない。

高橋 冊子を作ることはお願いできるのではないか。

久保 情報サポーターズになるかは義務化できない。

高橋 区民会議の人が情報サポーターズになってもいいのではないか。ただ、活動していると情報発信に時間が避けないので、情報発信だけのグループがあってもいい。「記者育成講座」という名称はどうか。

直本 大学への働きかけを基本すると、人が卒業などでいなくなる。

山下 つないでいくといいのではないか。

高橋 誰を集めるかはもう一度考えてもいいのではないか。

平井 冊子づくりの担い手づくりというのをはっきりうたったほうが方がいい。

区 作成しながらスキルを学ぶということを書く。講座名も考える。

持田 サポーターズのこと講座の最初で話した方がいい。

高橋 サポーターズのお金や受け皿はどうなのか。

区 冊子や歳時記をつくる経費はある。窓口は企画課となる。

平井 市民館の講座に企画課が関わるということでいいのか。

区 そうなる。ただし、企画課としてその後の組織の事務局となるのは厳しい。

久保 冒険遊び場は支援会が2年間は立ち上げ支援をするが、そのあとは独立する。

高橋 宮前ぼーたろの市民記者がいなくなってしまった。窓口はしっかりしてほしい。

持田 継続の仕組みが何かないか。冊子の改定費だけで継続できるか。

区 サポーターズがどういう組織になるかによって違ってくる。地域情報発信事業であれば交通費だけ予算化するというのもある。

直本 区民会議として毎年1万部つくることを提案してはどうか。

区 1万部増刷することはできる。改定するときにはサポーターズが団体になっていると委託できる。

持田 来年は講座をやるが、その先はどうなるか。企画課がついているから大丈夫か？

区 企画課は窓口になるが、行政がべったりでない組織になるとよい。

山下 毎年7000世帯が変わっている。その人達に情報発信していくために、冊子を作るという骨子を見失わないようにしたい。

久保 3年は配布したい。

区 区民会議の提案も期が変わっても再度出してもいいと思う。

持田 講座の内容はどのように打ち合わせをするのか？

区 まず、講師の目星をつけたい。

持田 講座の内容は区に任せてもいいのか。

高橋 対象者は再度考えた方がいい。

佐谷 これまでの話では、来年の区民館で開催する講座の目的、名称、対象者のことと、

第3期宮前区区民会議 第9回 地参知笑部会 摘録(案)

それ以降の改訂の仕組みや情報サポーターズの仕組みをどうしていくかという話が出ていた。

持田 次回はそれらを話しあうとということにしたい。

4. その他

区 次回は11月2日とする。

区 新総合計画の評価をした。評価の中身に対して意見があれば送ってほしい。

今後のスケジュール

平成 23 年度のスケジュール

年度	平成 23 年度											
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
全体会					第 5 回 区 民 会 議			第 6 回 区 民 会 議 11/28(月)		第 7 回 区 民 会 議	区 長 へ の 提 案	区 民 会 議 フ ォ ー ラ ム
			予算を想定した提案			・区長への提案素案確認 ・フォーラムイメージ				・区長への提案確認 ・フォーラム確認		
	企画				●			●			●	●
専門部会		●	●	●				●		●		
			・冊子制作・人材育成の方法等の確認 ・区の情報戦略イメージの確認					提案素案の確認			・提案のまとめ ・フォーラム確認	
	地参知笑部会							本日				
活力づくり部会	●	●	●	●	●	●	●			●		
		・ガイドブック活用(ゲーム・イベント、PR) ・ワーキンググループ活動計画の確認				・ガイドブックイメージ、構成等の確認 ・提案素案の確認					・提案のまとめ ・フォーラム確認	
	活力づくり部会											

開催数は必要に応じて調整

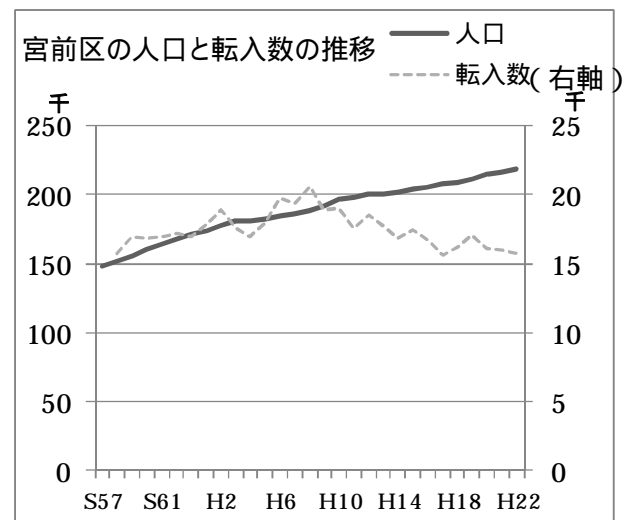
地参知笑部会 提案素案(案)

1. コミュニティへの参加を促す冊子と情報戦略に関する提案

1) 背景と課題

(1) 転出入者や川崎都民が多い宮前区

- 宮前区では毎年 7 千世帯(約 1 万 6 千人)が転入していますが、これらの世帯は地域に知り合いがいない場合が多く、孤立しがちです。学童のいる世帯が子どもを通じて地域に関わる機会を持つのに対し、特に乳幼児を抱える世帯や高齢者世帯では、地域に関わるきっかけが少なく、転入後も孤立が続く恐れがあります。
- 宮前区では平日は都内に通勤・通学し、休日は東京や横浜など宮前区以外を買い物やリクリエーションの場とする「川崎都民」が多くなっています。これらの層は宮前区への関心が低いため情報が届きにくく、宮前区に存在する魅力的な地域資源を認識していない状況にあります。
- こうした、地域で孤立した人や宮前区に「住む」だけの人増加が、地域コミュニティ希薄化の一因になっていると考えられます。



(2) 宮前区で「暮らす」ための情報提供が必要

- このような状況から、地域へのなじみの薄い人に、宮前区で単に「住む」だけでなく、地域との関わりを持ったり、宮前区の産物や行事を楽しんだりできるような、「暮らす」ための情報提供を積極的に行うことが課題となっています。
- これまでも区・市や民間企業が、地域情報を紹介するパンフレットやマップを発行してきましたが、内容が似通っていたり、興味を引くような記事や紙面構成になっていなかったりするケースがありました。
- インターネットの情報発信については、宮前区の地域ポータルサイト「ぽーたろう」がありますが、区民に十分に認知されていない面があります。また、若者を中心に、さまざまなソーシャルメディアを使って、口コミ情報を交換したり、同じ関心を持つ人同士でつながり合ったりする動きが広がっています。
- 今後は、転入者や川崎都民と言われる人たちに、宮前区で「暮らす」ためのわかりやすい情報を、紙媒体やインターネット等を組み合わせて、さまざまなチャンネルから効果的に伝達していく必要があります。

(3) 宮前区に愛着を持ち、地域への参加を促すコンテンツが必要

- 情報提供においては、「送り手」からの視点で地域情報を一方的に流すだけでは、情報に対する興味は持たれませんし、そもそも情報にアクセスしてもらえないかも知れません。こうした従来型の手法の延長では、地域での孤立や宮前区への無関心といった問題の解決はあまり期待できません。
- これからは、情報を受ける側の視点で魅力的なコンテンツを作成していくことが大切です。そのためには、これまで「受け手」であった人たちに、情報提供のコンテンツをつくる過程に参加してもらい、さらに、そのコンテンツを見た人たちに地域への参加を促す仕掛けを盛り込むなど、さまざまな工夫をしていく必要があります。

2) 提案

地参知笑部会では、宮前区の魅力やまちの楽しみ方をもっと知ってもらい、宮前区に愛着を持ってもらうことで、地域コミュニティへの参加を促すことを目指し、2つの提案をまとめました。

取組の全体像

取り組むべき課題

- × 地域になじみが薄く、「住む」だけの区民が多い
- × 地域コミュニティに参加し、「暮らす」ための情報が不足
- × これまでの情報発信のやり方では区民に伝わらない

目標

効果的な情報発信を通じて、
宮前区の魅力やまちの楽しみ方をもっと知ってもらい
宮前区に愛着を持ってもらい、
地域コミュニティへの参加を促す

提案

宮前区の魅力や楽しみ方を発信しよう
宮前区の地域情報を戦略的に発信しよう

3) 提案の具体的な内容

提案 : 宮前区の魅力や楽しみ方を発信しよう

実施内容

地域コミュニティへの参加を促す冊子の作成

転入者や川崎都民が、興味を持って読んで実際に参加してみたいくなるような、魅力的でわくわく感のある冊子を作成します。

【趣旨・目的】

- ・宮前区になじみの薄い区民（特に新住民や川崎都民など）をターゲットに、宮前区の魅力（モノ・場所・活動・人）やまちの楽しみ方を紹介することにより、宮前区に愛着を持ち、地域への参加を促すことを目的に制作します。
- ・インターネットが普及した現在においても、紙媒体による情報は年代を問わずに受け入れられる情報媒体であるため、この冊子を地域情報発信の第1のステップとして位置づけます。

【冊子作成主体】

- ・区民を募り、地域情報の発掘・取材・記事化して作り上げていきます。
- ・しかし、こうした冊子作りのノウハウを持つ区民は限られていますし、限られた人に依存しては、情報発信の裾野が広がりません。そのため、これを人材育成の契機と捉え、市民館と区役所が連携した「(仮称)地域情報発信講座」を開設し、その実践プログラムの一環として冊子を作成していきます。

【掲載する情報】

- ・冊子のコンセプトは、次のとおりです。

①コミュニティへの参加を促すものとする

②項目ごとにターゲットとなる読者を明確にする

- ・転入者や川崎都民など、情報が届きにくい層
- ・高齢者や子育て世代などの世代別などの切り口

③個々人がほしい情報をわかりやすく伝える

- ・ガイドブックのガイドブック的なイメージ
- ・10分程度で一通り読めるくらいのボリューム
- ・顔の見える親しみやすいものにする
- ・読み物としても面白いものとする

- このコンセプトを基に、区民会議でイメージをまとめましたので、これをベースに、作成を担う講座参加者（※提案2で説明）のアイデアを取り入れながら作り上げていきます。

コンテンツのイメージ

1 世代別レポート

地域に参加している世代別の区民を取材したり、様々なことを体験してもらい、そのレポートを記事にして掲載します。

- ①中高生・大学生
- ②若い（子育て）
- ③働き世代
- ④高齢世代

2 体験できるページ

- いちご狩りやお祭りの時の神輿担ぎ等、区内で誰でも体験できるイベント等の情報を掲載します。体験を通して、その土地となじむことができ、地域とのつながりのきっかけになるような内容とします。
- 町会・自治会と関わるきっかけとなったり、市民館等での学習の機会を通じて知り合い・仲間をつくったりするような視点も考えられます。

3 ゲーム等

- スタンプラリーや謎解きゲーム等、単に読むだけでなく気軽に参加できる内容を掲載します。区民会議から生れた「みやまえカルタ」等との連携でも考えられます。
- これらのについては、住民・企業・団体・行政との連携が生まれる新しい仕組みづくりをすると、情報発信から地域づくりに発展させることができます。例えば、商店街等とタイアップして、スタンプラリーのスタンプ拠点をお店にすることによって、地域の活性化も期待できます。

4 ガイドブックのガイド

これまでに区や市が発行した地域情報に関する冊子のリストを掲載します。よりくわしい内容はこれらの冊子で得てもらうようにします。

5 宮前区のプロフィール・概要

宮前区の人口、面積等のプロフィールや、特徴を表すデータ等をコラム的に掲載します。また、宮前区はエリア別に特徴があるので、それがわかる情報も掲載します。

【ページ数、部数等】

- A4判、オールカラーで20ページ程度とします。
- 毎年1万部印刷し、転入世帯への配布を中心に、公共施設での配布や区ホームページへの掲載をします。
- 平成24年度中に作成し、3年程度を目安に改定します。

【スケジュール】

- ・「(仮称) みやまえ情報サポーターズ養成講座」は、次のようなスケジュールを想定します。

平成 24 年 3 月 公募開始

平成 24 年 4～5 月 講座スタート

- ・ 10 回程度

- ・ 他に取材や任意の打ち合わせを行う

平成 25 年 3 月 冊子発行

【作成協力】

- ・ 冊子作成にあたっては、講座において冊子の趣旨を理解してもらったり、受講生が取材する人・場所や、地域資源についてのアドバイスしてもらうなどの協力が必要です。地域に精通した区民会議委員が、これらを紹介するなどの協力をするものとします。

提案 : 宮前区の地域情報を戦略的に発信しよう

実施内容

「みやまえ情報サポーターズ」を結成

さまざまなメディアを使いながら、宮前区の魅力的な地域情報を区民の目線から継続的に発信する「みやまえ情報サポーターズ」を結成します。

【趣旨・目的】

- ・ 地域の魅力や楽しみ方を、市民や地域が主体となって発信しようとする動きが広がっています。例えば新百合ヶ丘では、大学生と地元タウン紙が協力して、大学生の視点から見た新百合ヶ丘のガイドブック「しんゆり Campus」(右写真)を制作しています。そこでは、しんゆりデートプランやリーズナブルでおいしいを大学生の視点から、大学生の言葉で紹介しています。こうした情報発信は、公平性やバランス感覚が求められる区役所の広報からは、出にくい面があります。



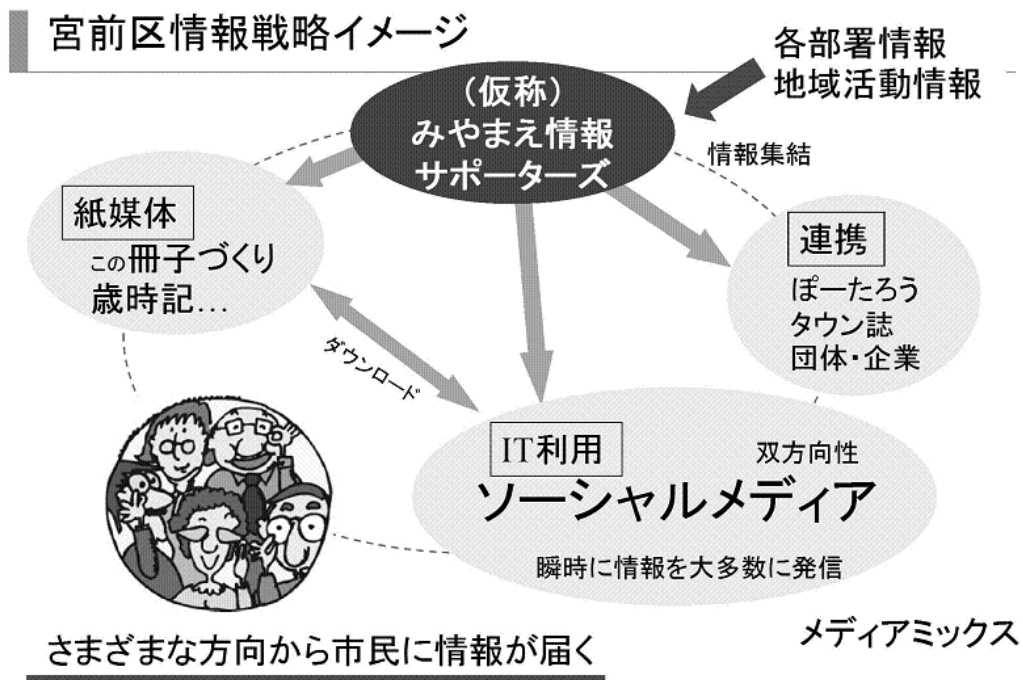
- また、近年の youtube などの動画配信や facebook (下写真)、twitter などのソーシャルメディアの興隆とともに、誰でも不特定多数の人に情報発信し、関心のある人同士がつながり合えるようになってきています。それらを活用して、地域のオススメ情報や口コミ情報を発信する動きが各地で活発化しており、これまで主流であったマスメディアや紙媒体による情報発信に匹敵するものになりつつあります。



- 宮前区においても、「みやまえぽーたろう」をはじめとする地域情報サイトや宮前区観光協会の情報誌「宮前の風」などがありますが、新百合ヶ丘周辺の取組などと比較して、地域や区民を巻き込んだ動きや仕組が十分ではないのが現状です。

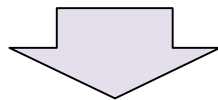
【実施内容】

- これからの情報発信は、地域や区民を巻き込み、さまざまなメディアを効果的に活用して戦略的に展開する必要があります。そこで、広く区民に呼びかけて、地域で楽しむことに興味のある区民が気軽に参加し、こうした人たちの視点から継続的に情報発信する仕組として、「(仮称)みやまえ情報サポーターズ」を結成します。

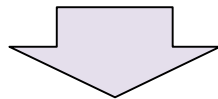


【結成や活動の流れ】

- 「(仮称) 地域情報発信講座」では、講座の受講生が「(仮称) コミュニティの参加を促す冊子」を作成しますが、それに加え、ソーシャルメディア (SNS、ブログ、twitter、youtube、Ustream 等) についても学びます。
- さらに、様々な媒体を活用した効果的な情報発信・情報共有の戦略についても学び、その実践訓練として、冊子の作成経過や冊子に掲載する内容を発信していきます。
- こうした活動を経て、ソーシャルメディア活用のノウハウを身に付けます。



- 講座の受講生の有志を中心に、活動に関心のある人も募り、冊子作成後も継続的に情報発信する「みやまえ情報サポーターズ」を結成します。
- みやまえ情報サポーターズは平成 24 年度内に行う講座が終わった後も自主的あるいは組織的に情報収集や取材をして、それをソーシャルメディア等で発信していきます。
- ソーシャルメディア等での関心のある人同士のコミュニケーションやネットワーク化の中で、みやまえ情報サポーターズのコンセプトに共感を持つ人を増やしていきます。



- これらにより実績・経験を重ね、みやまえ情報サポーターズが中心となって新たな付加価値のある情報が、継続的に発信されることが期待されます。
- 活動の展開として、「(仮称) コミュニティの参加を促す冊子」改定版の制作や「歳時記みやまえ」の編集への参加なども想定されます。

【スケジュール】

みやまえ情報サポーターズは、平成 25 年度の早い時期の結成が期待されます。

【課題】

- みやまえ情報サポーターズを結成するにあたり、その枠組をどうするかによって、活動形態や資金についての考え方が変わってきます。

緩やかなネットワーク ⇒ 既存組織が受け皿 ⇒ NPO などの組織体

- ◆ 活動形態 (個人の自由な活動 ⇔ 組織的な活動)
- ◆ 活動領域 (個別の情報収集・発信が中心 ⇔ 地域連携などへの展開も)
- ◆ 資金 (資金需要小 ⇔ 資金的な裏づけが必要)

- ・みやまえ情報サポーターズの状況（人数・能力・メンバーの意向）、受け皿となりうる組織の有無、区役所との関係などの各要素を整理し、メンバーが活動しやすい環境をつくる必要があります。

4) 地参知笑部会の検討経過

第1回	9名出席	平成22年8月31日(火)
	・宮前区らしさ・地域特性を活かしたコミュニティづくりのイメージ 等	
第2回	9名出席	平成22年9月30日(木)
	・地産地消の具体的な題材 ・部会名称と部会長	
第3回	10名出席	平成22年12月2日(木)
	・地産地消を通じたコミュニティづくり ・部会の名称	
第4回	8名出席	平成22年1月28日(金)
	・コミュニティづくりにつながる仕掛けづくり ・区民会議フォーラムの開催について	
第5回	9名出席	平成23年4月15日(金)
	・宮前区に愛着をもち、地域への参加を促すための冊子	
第6回	8名出席	平成23年5月16日(月)
	・委員が作成した目次案の報告 ⇒ 目次案のまとめ	
第7回	9名出席	平成23年6月14日(火)
	・コンテンツのイメージと制作体制の検討	
第8回	7名出席	平成23年7月15日(金)
	・冊子の制作体制と区の情報戦略の検討	
第9回	9名出席	平成23年9月28日(水)
	・区の情報戦略について ・コミュニティへの参加を促す冊子について	